

2025年 大阪・関西万博 日本政府館の検討について

2021年10月26日

経済産業省

博覧会推進室

- 1. 大阪・関西万博について**
2. 過去博の日本館について
3. 日本館基本構想について
4. 今後の日本館の検討について

大阪・関西万博について（概要）

1. テーマ・サブテーマ・コンセプト

テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン
“Designing Future Society for Our Lives”
サブテーマ：Saving Lives（いのちを救う）
Empowering Lives（いのちに力を与える）
Connecting Lives（いのちをつなぐ）
コンセプト：People’s Living Lab（未来社会の実験場）

2. 基本事項

- ①開催場所
ゆめしま
夢洲（大阪市臨海部）
- ②開催期間
2025年4月13日～10月13日
（184日間）
- ③来場者数(想定)
約2,800万人



名称

- ◆日本語（正式）：2025年日本国際博覧会
同（略称）：大阪・関西万博
- ◆英語：EXPO2025, OSAKA, KANSAI, JAPAN

主なスケジュール

- 【2018年】
11月23日：誘致決定
- 【2019年】
1月30日：博覧会協会の設立
4月26日：万博特措法の公布
5月23日：万博特措法（一部）施行
- 【2020年以降】
9月16日：万博特措法（全部）施行
（（法律上の）国際博覧会担当大臣の任命、内閣に推進本部設置）
12月1日：BIE総会（開催計画承認）
→ 参加招請の開始）
12月21日：基本方針の閣議決定
12月25日：博覧会協会の基本計画公表
2021年10月～2022年3月：ドバイ万博

大阪・関西における2025年国際博覧会の開催に向けて

- 東京オリパラ後の国家的なプロジェクトであり、開催に向けて、政府、地元自治体及び経済界がオールジャパンの体制で、大阪・関西万博の成功に万全を期す。

1. SDGsの達成に向けた万博

- ・ 誘致に際して、Society 5.0を鍵としたSDGs（持続可能な開発目標）達成（目標年2030年）への貢献という訴えが国際的に高く評価された。
- ・ そのため、Society 5.0に向けた成長戦略を一層加速化させるとともに、途上国を含めた多くの参加国と共に創る万博とすること（Co-creation）が重要。

2. 未来社会の実験場として

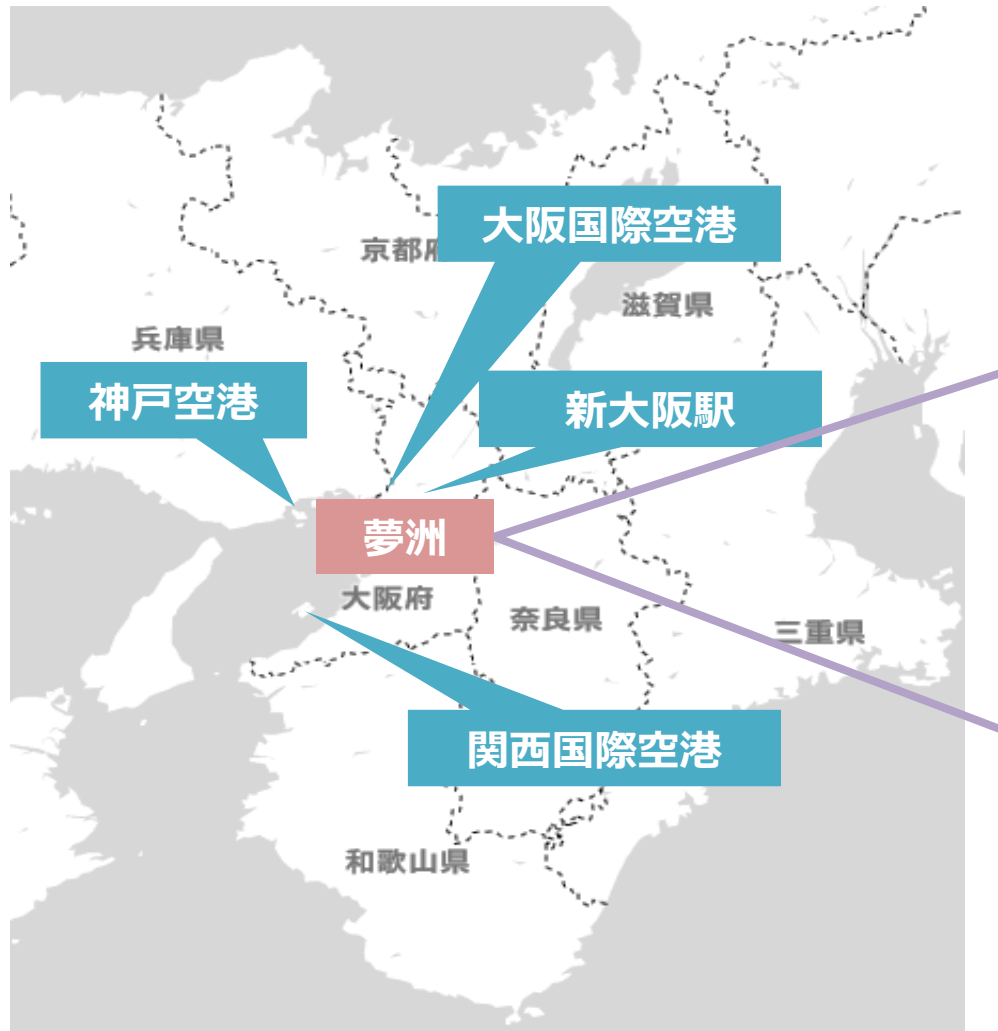
- ・ 万博を、新たなアイデアが続々と生み出され、社会実装に向けて試行される「未来社会の実験場」とする。
- ・ そのため、実験的なプロジェクトを推進する仕組みを設けるとともに、国内外の新たな人材を登用するなど、イノベーションの創出に向けた工夫をこらすことが重要。

3. 地域経済活性化の起爆剤に

- ・ 万博は、日本の魅力を世界に発信する絶好の機会。
- ・ 開催地である大阪・関西のみならず、日本各地を訪れる観光客を増大させ、地域経済が活性化する「起爆剤」とする。

建設予定地の概要

- 大阪・関西万博の会場である夢洲は、大阪市内の臨海部に位置する人工島であり、会場地は現在埋立てを進めている。



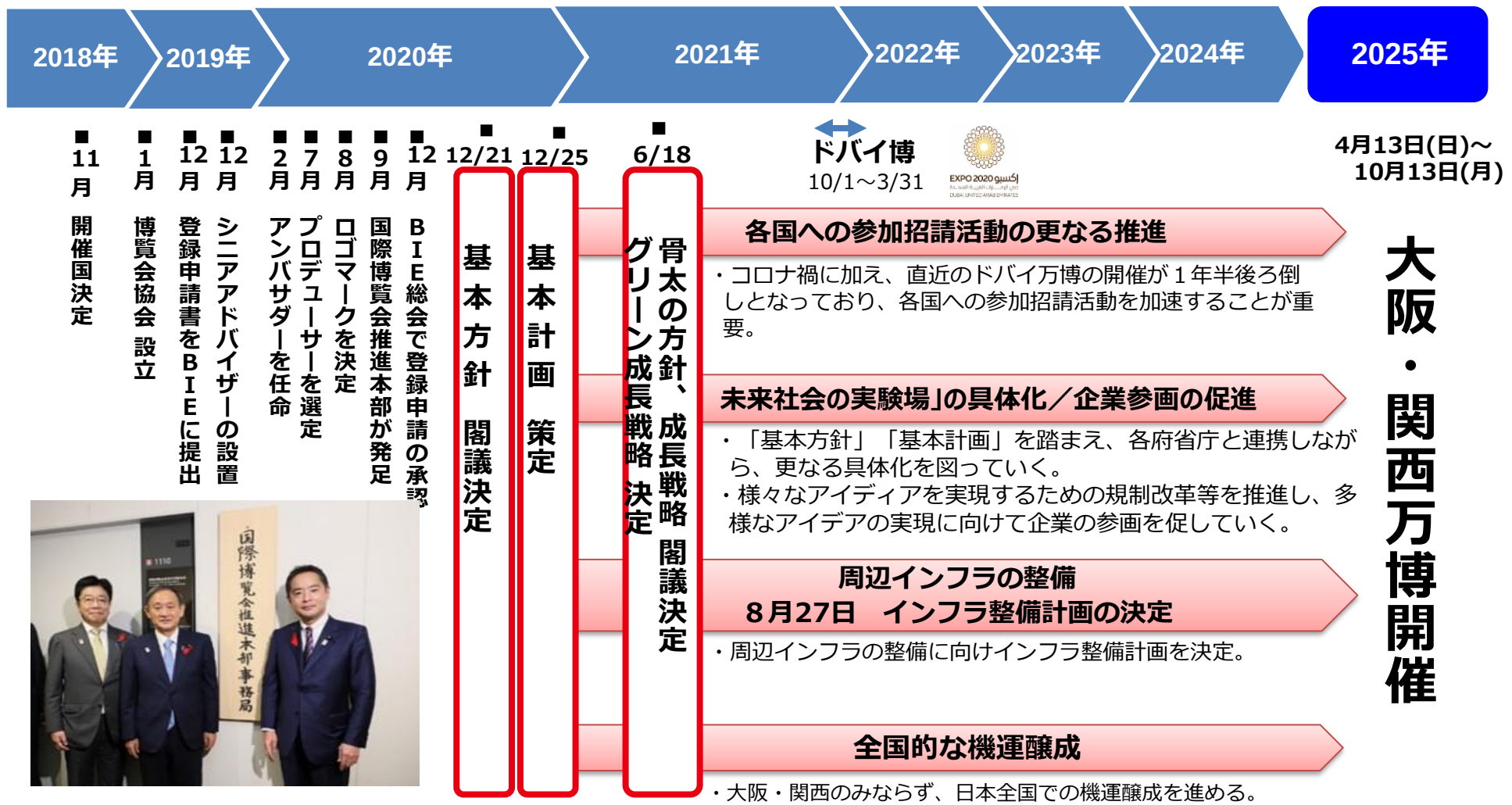
会場デザイン

～世界とつながる海と空に囲まれた万博～



万博の進捗とスケジュール

- 昨年12月に「基本方針」（閣議決定）及び「基本計画」を策定。コロナ禍の厳しい状況ではあるが、各国への参加招請活動の推進、大阪・関西万博の具体化に向けた検討、周辺インフラの整備、全国的な機運醸成等を積極的に推進。



2020年10月1日 国際博覧会推進本部事務局開所式

参加招請活動について

- 2020年12月1日の登録申請承認後、**150カ国25国際機関**の出展を目標に我が国の在外公館経由で参加招請状を発出し、現地政府等への働きかけを実施。
- 10月15日時点で**58カ国 5 国際機関**から参加表明。
- 2005年愛知万博には120カ国 4 国際機関が出展。

○参加表明国（58カ国） ※下線はG20国

- | | | | | |
|-------------------|-------------------|----------------|--------------------|--------------------|
| ● アフガニスタン・イスラム共和国 | ● <u>アメリカ合衆国</u> | ● アラブ首長国連邦 | ● アルジェリア民主人民共和国 | ● <u>アルゼンチン共和国</u> |
| ● アンゴラ共和国 | ● イエメン共和国 | ● イラン・イスラム共和国 | ● <u>インド</u> | ● <u>インドネシア共和国</u> |
| ● ウズベキスタン共和国 | ● <u>英国</u> | ● エジプト・アラブ共和国 | ● ガーナ共和国 | ● カザフスタン共和国 |
| ● カタール国 | ● カンボジア王国 | ● ギニア共和国 | ● ギニアビサウ共和国 | ● キューバ共和国 |
| ● ギリシャ共和国 | ● キルギス共和国 | ● クウェート国 | ● コモロ連合 | ● ザンビア共和国 |
| ● サウジアラビア | ● ジブチ共和国 | ● ジンバブエ共和国 | ● スイス連邦 | ● スペイン王国 |
| ● スリナム共和国 | ● セネガル共和国 | ● タイ王国 | ● <u>大韓民国</u> | ● 中央アフリカ共和国 |
| ● <u>中華人民共和国</u> | ● <u>ドイツ連邦共和国</u> | ● ドミニカ共和国 | ● トルクメニスタン | ● ネパール連邦民主共和国 |
| ● バーレーン王国 | ● バングラデシュ人民共和国 | ● ブータン王国 | ● <u>ブラジル連邦共和国</u> | ● <u>フランス共和国</u> |
| ● ブルキナファソ | ● ブルンジ | ● ベトナム社会主義共和国 | ● ポルトガル共和国 | ● マリ共和国 |
| ● <u>メキシコ合衆国</u> | ● モザンビーク共和国 | ● ヨルダン | ● ラオス人民民主共和国 | ● ルーマニア |
| ● ルクセンブルク大公国 | ● レソト王国 | ● <u>ロシア連邦</u> | | |

○国際機関（5機関）

- アフリカ連合協委員会（AUC）
- イーター国際核融合エネルギー機構（ITER）
- 欧州連合（EU）
- 太陽に関する国際的な同盟（ISA）
- 国際赤十字・赤新月運動



2020年12月10日：フィリピンのロペス大臣とのウェブ会談



2020年 12月2日：5か国1地域の在京大使や臨時代理大使大臣への参加招請

企業・団体向け「出展参加説明会」

- 8月19日に企業・団体向けに「出展参加説明会」を実施。
- パビリオンの出展方法、未来社会ショーケース事業出展方法、テーマ協賛への参加方法等を説明。
- 2,759人がライブ配信を視聴。10月29日までオンデマンド配信を実施しており、10月20日現在で5,489人が視聴。

《説明会当日の概要》

1. 日時

- 8月19日（木）13：30～15：00

2. 形式

- ライブ配信
※オンデマンド配信を実施。
※8月23日(月)13:00～10月29日(金)17:00まで

3. 主催

- 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

4. プログラム

- ① 主催者挨拶
- ② 全体概要（万博概要、参加メニュー概要）
- ③ 「テーマ事業協賛」の参加概要
- ④ 「未来社会ショーケース事業出展」の参加概要
- ⑤ 「パビリオン出展」及び「参加メニュー全般」の参加概要
- ⑥ 申込時にいただいた質問への回答（代表的なご質問への回答）

企業等が参加できる施設

- 企業・団体向けに多様な施設を用意。



パビリオン出展

- ・日本経済をけん引する企業・団体や、これからの日本経済の進むべき道筋を提案するチャレンジ精神に満ち溢れた企業・団体の積極的な参加を期待。

テーマ事業出展参加

- ・テーマ事業に掲げた8のテーマについて、それぞれの分野の最前線で活躍するエキスパートをテーマ事業プロデューサーに起用し、個々の創造性と相互連携による共創を組み合わせ、テーマ事業の企画（パビリオンや催事等）を推進する。
- ・企画が具体化した後に、企業・団体等の参加を得て、実装していく。

営業参加・催事参加・その他

- ・ベストプラクティスエリア、メッセ、ギャラリー等での展示あり方については今後検討
- ・営業参加については営業基本計画を策定中
- ・催事参加については施設と件を調査中

基本計画の概要

- 博覧会協会が、2025年の開催に必要な事業とその方針について、プロデューサーの意見を踏まえて策定した全体の計画。
- これに基づき、来年以降、様々な事業の実施計画の策定や具体的な取り組みを推進すると共に、企業・団体・自治体・市民団体等の参加形態を示すことにより、多様な参加を促進

■会場デザイン

- 四方を海に囲まれた会場ロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」に囲まれた万博として会場をデザイン



■未来社会のショーケース

- COVID-19を乗り越えた先の『新時代の国家プロジェクト』として、2025年以降の未来社会を感じさせる次世代技術の実証と2025年にふさわしい先端技術の実装を目指す
- バーチャル技術を活用し、万博の魅力と発信力を高める「バーチャル万博」の実施



■運営計画

- 催事計画
- 入場制度
- 営業活動
- 防災・セキュリティ
- 情報通信
- 輸送
- 持続可能性に配慮した運営
- リスク管理

プロデューサーについて

- 会場デザイン・運営、テーマ館の企画立案・展示を具体化するため、博覧会協会は分野毎にプロデューサーを設置。

会場デザインプロデューサー

藤本 壮介
(ふじもと そうすけ)
建築家



会場運営プロデューサー

石川 勝
(いしかわ まさる)
プランナー、プロデューサー



テーマ事業プロデューサー

福岡 伸一
(ふくおか しんいち)
生物学者
青山学院大学教授



「いのちを知る」

河森 正治
(かわもり しょうじ)
アニメーション監督
メカニックデザイナー



「いのちを育む」

河瀬 直美
(かわせ なおみ)
映画監督



「いのちを守る」

小山 薫堂
(こやま くんどう)
放送作家、脚本家



「いのちをつむぐ」

石黒 浩
(いしぐろ ひろし)
大阪大学栄誉教授
ATR石黒浩特別研究所
客員所長



「いのちを拡げる」

中島 さち子
(なかじま さちこ)
音楽家、数学研究者
STEAM教育家



「いのちを高める」

落合 陽一
(おちあい よういち)
メディアアーティスト



「いのちを磨く」

宮田 裕章
(みやた ひろあき)
慶應義塾大学教授



「いのちを響き合わせる」

シニアアドバイザーについて

- 大阪・関西万博に、専門知識や技術、文化等の観点から助言を受けるため、博覧会協会は15名のシニアアドバイザーを設置。



山極 寿一
(やまぎわ じゅいち)
総合地球環境学
研究所長



安藤 忠雄
(あんどう ただお)
建築家



桂 文枝
(かつら ぶんし)
落語家、タレント



コシノ ジュンコ
デザイナー



西尾 章治郎
(にしお しょうじろう)
大阪大学総長



宮田 亮平
(みやた りょうへい)
第22代文化庁長官



ロバート キャンベル
国文学研究資料館長



千 宗室
(せん そうしつ)
裏千家 家元



五神 真
(ごのかみ まこと)
東京大学大学院
理学系研究科 教授



大崎 洋
(おおさき ひろし)
吉本興業ホールディングス
株式会社会長



吉田 憲司
(よしだ けんじ)
国立民族学博物館館長



ウスビ サコ
京都精華大学学長



池坊 専好 (四代)
(いけのぼう せんこう)
華道家元池坊 次期家元



河瀬 直美
(かわせ なおみ)
映画監督



山崎 直子
(やまざき なおこ)
宇宙飛行士

アンバサダーについて

「大阪・関西万博の顔」として万博の魅力を伝えるため、博覧会協会は「2025年日本国際博覧会協会アンバサダー」を任命。



コブクロ
ミュージシャン



佐渡 裕
(さど ゆたか)
指揮者



ダウNTOWN
タレント

宝塚歌劇団



聖乃 あすか
(せいの あすか)



風間 柚乃
(かざま ゆの)



縣 千
(あがた せん)



極美 慎
(きわみ しん)



風色 日向
(かぜいろ ひゅうが)



松本 幸四郎
(まつもと こうしろう)
歌舞伎役者



山中 伸弥
(やまなか しんや)
京都大学iPS細胞研究所所長・教授 12

1. 大阪・関西万博について
- 2. 過去博の日本館について**
3. 日本館基本構想について
4. 今後の日本館の検討について

◇ 1970年大阪万博 日本館



・テーマ：日本と日本人

・建築デザイン：日建設計

・特徴：中央にある高さ80メートルの塔を中心に5つの円形建物がそれぞれ3本柱によって地上から6.5メートルほど浮かんで建っており、空からみると桜の花びらのように見える建物の配置は、大阪万博のシンボルマークをかたどったもの。展示のテーマは「日本と日本人」。日本と日本人の過去・現代および未来の理想を各方面にわたって表し、世界の人々の日本に対する理解を深めるとともに、国民に強い自信と明るい希望を与えるのがねらいだった。

◇2005年愛知万博 長久手日本館



- ・テーマ：日本の経験、20世紀の豊かさから21世紀の豊かさへ～離れはじめた人と自然をもう一度つなぎ直そう
- ・建築デザイン：日本設計
- ・特徴：環境への配慮として館内の電力は100%新エネルギーを使用、熱負荷を低減する竹ケージやコクマザサによる壁面緑化などを取り入れた建築。館内では、「日本の経験、“20世紀の豊かさから21世紀の豊かさへ”」をテーマに、地球が今どのような危機を抱えているかを知ると同時に、その地球がかけがえのない場所であり、いかに素晴らしい星なのか、そして、人と自然とのつながりを取り戻すことの大切さを呼びかけた。

◇2005年愛知万博 瀬戸日本館



・テーマ：自然と生きる日本人の知恵・技・ころ～自然とつながる感性を取り戻そう

・建築デザイン：日本設計

・特徴：自然に調和し、自然エネルギーの力で「自ら息づく」、自然融合型建築。里山の自然植生や自然地形が残る場所にあったので、周辺の地形の改変を極力少なくするため、4本の柱だけで建物を支える構造とした。展示のテーマは、「自然と生きる日本人の知恵・技・ころ～自然とつながる感性を取り戻そう」。日本が古くから育んできた「知恵・技・ころ」から、災害の防止、快適な生活、資源の有効利用など科学や技術のみでは解決出来ない問題への解決の糸口を提示した。

参考：海外博における日本館について

◇2020年ドバイ博・2015年ミラノ博 日本館



<ドバイ万博 日本館>

テーマ：Where Ideas Meet -アイディアの出会い-

特徴：中東のアラベスクと日本の麻の葉文様を組み合わせ、両国の繋がりを表現したファサードや、日本と中東の伝統的な環境システムを応用し、水盤を配した環境配慮建築。

来館者にはスマホを貸与し、展示体験の履歴データを蓄積。毎回クライマックスが異なる演出で「アイディアの出会いがより良い未来を創る」ことを体感してもらい、来場者に2025年に向けたActionを促す。

画像出典 <https://expo2020-dubai.go.jp/ja/architecture>



<ミラノ万博 日本館>

テーマ：Harmonious Diversity -共存する多様性-

特徴：日本館のシンボルとして、外壁に立体木格子を世界で初めて採用した。ITや映像技術を駆使したインタラクティブな展示で、「食を巡る遙かなる旅」の体験を来館者に届けた。

画像出典 https://www.jetro.go.jp/jetro/topics/2015/1511_topics5.html

1. 大阪・関西万博について
2. 過去博の日本館について
- 3. 日本館基本構想について**
4. 今後の日本館の検討について

日本館基本構想について

- 大阪・関西万博における日本館は、大阪万博の掲げるテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を、ホスト国としてプレゼンテーションする拠点となる。
- 日本館の方向性について検討するため、昨年7月からワークショップを開催し、計9名のクリエイターを中心に基本構想案を検討。本年4月、日本館の出展目的・建築空間・設計・展示のあり方、日本館テーマ、推進体制（総合プロデューサーの設置）等を盛り込んだ基本構想を策定した。

ファシリ
ーター

クリエイター
（五十音順）

	塩瀬 隆之 (1973年生まれ)	京都大学総合博物館准教授。京都大学工学部卒業、同大学院工学研究科修了。博士(工学)。専門はシステム工学。2012年7月より経済産業省産業技術政策課にて技術戦略担当の課長補佐に従事。2014年7月より復職。小中高校におけるキャリア教育、企業におけるイノベーター育成研修など、ワークショップ多数。
	市原 えつこ (1988年生まれ)	メディアアーティスト。民俗芸能やメディア情報学を学んだのち現代のテクノロジーを用いて日本の習俗や信仰を再構築する生粋の「まつり」アーティスト。2016年に Yahoo! JAPAN を退社し独立、現在フリーランス。
	指出 一正 (1969年生まれ)	月刊ソトコト 編集長。上智大学法学部国際関係法学科卒業。「関係人口」という新しい地域イノベーションのキーワード提唱者で、SDGs を地域から推進しているリーダー。
	佐藤 オオキ (1977年生まれ)	nendo 代表。2002年、早稲田大学大学院理工学研究科建築学専攻修了後、nendo東京オフィス設立。05年、ミラノオフィス設立。06年、Newsweek誌「世界が尊敬する日本人100人」
	太刀川 英輔 (1981年生まれ)	NOSIGNER代表。2003年、法政大学工学部卒業。2006年、慶應義塾大学大学院理工学部建築学科に在学中、nosigndesignを設立し独立後、あえて個人名は出さずNOSIGNERとして活動。
	田中 みゆき (1980年生まれ)	キュレーター・プロデューサー。東京工業大学リベラルアーツ研究教育院非常勤講師。日本科学未来館で展覧会やパフォーマンスなどの企画に携わった後、「障害は世界を新しく捉え直す視点」をテーマに、展覧会などを企画する。
	平賀 達也 (1969年生まれ)	株式会社ランドスケープ・プラス 代表取締役。高校卒業後に単身アメリカへ留学。1993年ウェストヴァージニア大学ランドスケープアーキテクチャー学科卒業。同年日建設計に入社。2008 年ランドスケープ・プラスを設立し、現在に至る。
	平田 晃久 (1971年生まれ)	建築家 京都大学教授。1997 年京都大学大学院工学研究科修了。伊東豊雄建築設計事務所勤務の後、2005 年平田晃久建築設計事務所を設立。
	南澤 孝太 (1983年生まれ)	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授。触覚技術を活用し身体的経験を伝送・拡張・創造する身体性メディアの研究開発と社会実装、Haptic Design を通じた触感デザインの普及展開、新たなスポーツを創り出す活動を推進。

政府館の出展意義等

➤ 2025年大阪・関西万博開催の意義

- 「People's Living Lab（未来社会の実験場）」とする。
- SDGs達成さらにはSDGs+beyondに貢献する国際博覧会とする。
- 一つ一つの輝くいのちの交流と創造によってデザインされる未来の展望を世界に示す万博を目指す。

➤ 日本政府出展事業の目的と使命

- 「いのち」という原点に立ち返り、一人一人のいのち、また地球という母体の中で生かされる様々ないのちに向き合う。そしてこの土壌を大切な次世代のいのちへと受け継ぐために、持続循環型の仕組みを前提としながら、個々人の選択が自由に広がり、互いに尊重され、自己実現できる社会を目指す。

➤ 出展に際しての視点

- 日本のテクノロジー可視化・加速の契機
- 若い世代の才能の飛躍の機会創出
- 子どもたちの参加体験を重視
- 新たな「いのち」の在り方を定義するような機会提供。
- 地球規模の社会課題について自分事化
- 会期前から日本館に主体的に関わる人口の拡大

テーマ

いのちと、いのちの、あいだに

テーマコンセプト

来場者は、他者と自分、人と人以外、生物と非生物など、様々ないのちといのちの「あいだ」（境界・差異・関係性）を見つめることで、それぞれのいのちの尊さや、互いに支えあっている存在であることを自覚する。

自分たちが大きな地球の中で生きていることに気づき、他のいのちと共創しながら大きな循環を生み出す大切さを学ぶ。こうした一連の体験を経て、SDGsに代表される社会課題を自分事として咀嚼し、未来社会のつくり手としての行動変容を促す。

テーマステートメント全文

- 2020年、新型コロナウイルス感染症の発生と拡大により、私たちはかつてない分断と価値観の揺らぎを体験し、自分たちのいのちと繋がり大切さにもう一度向き合うことになった。その一方で、コロナ禍において世界がロックダウンしている間に、自然環境は急速な改善を見せた。新型コロナウイルス感染症の痛みの中で、私たちは生態系と共生するきっかけとヒントも得たのかもしれない。この両面性ある特別な経験は奇しくも、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会」とはなにかを深く考える契機となった。
- なかでも強く実感したのは、私たちは決して一人では生きていけないということではないか。私たちはどのような状況においても、他者とのコミュニケーションや様々な生物との繋がりを必要としている。地球は長い時間をかけて、生態系を変化させ、いのちの源である水は循環し、多様な生命が繋がる生態系を育んできたが、その環境は劇的に変化している。だからこそ、人類以外の生命や環境との相互作用のなかで、それぞれの環世界を尊重しながら、いのちのあり方を見つめ直すことは重要な意味を持つだろう。
- 一方でデジタル空間や宇宙など、新たなフロンティアの存在がますます身近になり、私たちは、空間や時間を超えた繋がり、人と人の繋がりを紡ぎ出す方法を獲得しつつある。
- こうした時代認識を踏まえ、日本が古来有する万物への畏敬や死生観・自然観を基に、完全無欠ではない一つ一つのいのちが、それぞれの輝きを放ちながら力を合わせ、互いに共鳴しあい、未来社会を構築することを実感する日本館を提案したい。それぞれのいのちが響き合い、共に地球の未来を創ることを体現すべく、地球を中心としたデザインの観点も踏まえ、世界とともにいのちのあり方を考える場としていく。
- 故に、日本館はパビリオンという枠をも超え、地球環境とデジタルな世界とを相互に繋ぎあう有機的なプラットフォームとなり、準備・計画段階から、多様な地球市民の参加を受け入れる。あらゆる応答は祝福され、参加者の関わり方により、パビリオンのコンテンツは生物のように進化する。日本館に参加する人たちは皆、自らの選択によって様々に変化する物語を体験し、その選択が未来に繋がることを実感する。
- 日本館は未来が生まれる場であり、他者・コミュニティ・地球環境と「関わりしろ」を持ちながら、全ての参加者を主体として迎え入れる。そして、日本館を体験した少年少女たちは万博チルドレンとして、誰もが一回り成長し、未来社会を実現するクリエイターとなるだろう。

日本館を通じた来場者体験

来場前

来場中

来場後

(1) パビリオン来場前（会期前～会期中）

- 会期前から来場者が日本館のプロセスに参画。

(2) パビリオン来場中（会期中）

- パビリオンは来場者の選択や情動に呼応する設計（来場者の主体的関与）。
- デジタル空間にも日本館のコンテンツを配置し、相互に連携。
- 「来場」という概念を拡張。

(3) パビリオン来場後（会期中～会期後）

- 展示で得た学び・気づきを自分自身の言葉で言語化する機会を設ける。
- 社会課題や未来の人類社会の在り方を自分事として捉え、日常生活の中でアクションを起こす人を増やす。
- 会期後も日本館コンテンツの一部はレガシーとして残せるよう検討。

日本館基本構想について（各分野の考え方）

建築・空間設計

- 展示と建築の融合による一貫した来場者体験の創出
- 建設サイクル全体を通じた循環システムの構築
- 会期前からの参加者の巻き込み
- 屋内外を通じた敷地空間の柔軟な活用
- サステナブルな資源利用

展 示

- 来場者の主体性を重視した多層展示
- ダイバーシティを実感する展示体験
- 自分事化を促す双方向展示体験
- 循環導線の連関を意識した空間構成
- リアルとデジタルの相互連関
- 自分の「いのち」と向き合う体験
- 万博後の社会実装につながる展示

コミュニケーション

- 会期前からのコミュニティ拡大
- 未来を担う子どもたちとの対話
- 多様なプレイヤーを発信主体として巻き込み
- アカデミアと連携し、サイエンスコミュニケーションの機会に
- SDGs+beyondに関するフォーラムの開催

運 営

- バリア／ストレスフリーなパビリオン運営
- 主客一体の体現
(スタッフと来場者の垣根を超えて共同で一つのパビリオンを作り上げる体験)
- 感染症対策も踏まえた安全安心な体制構築

推進体制

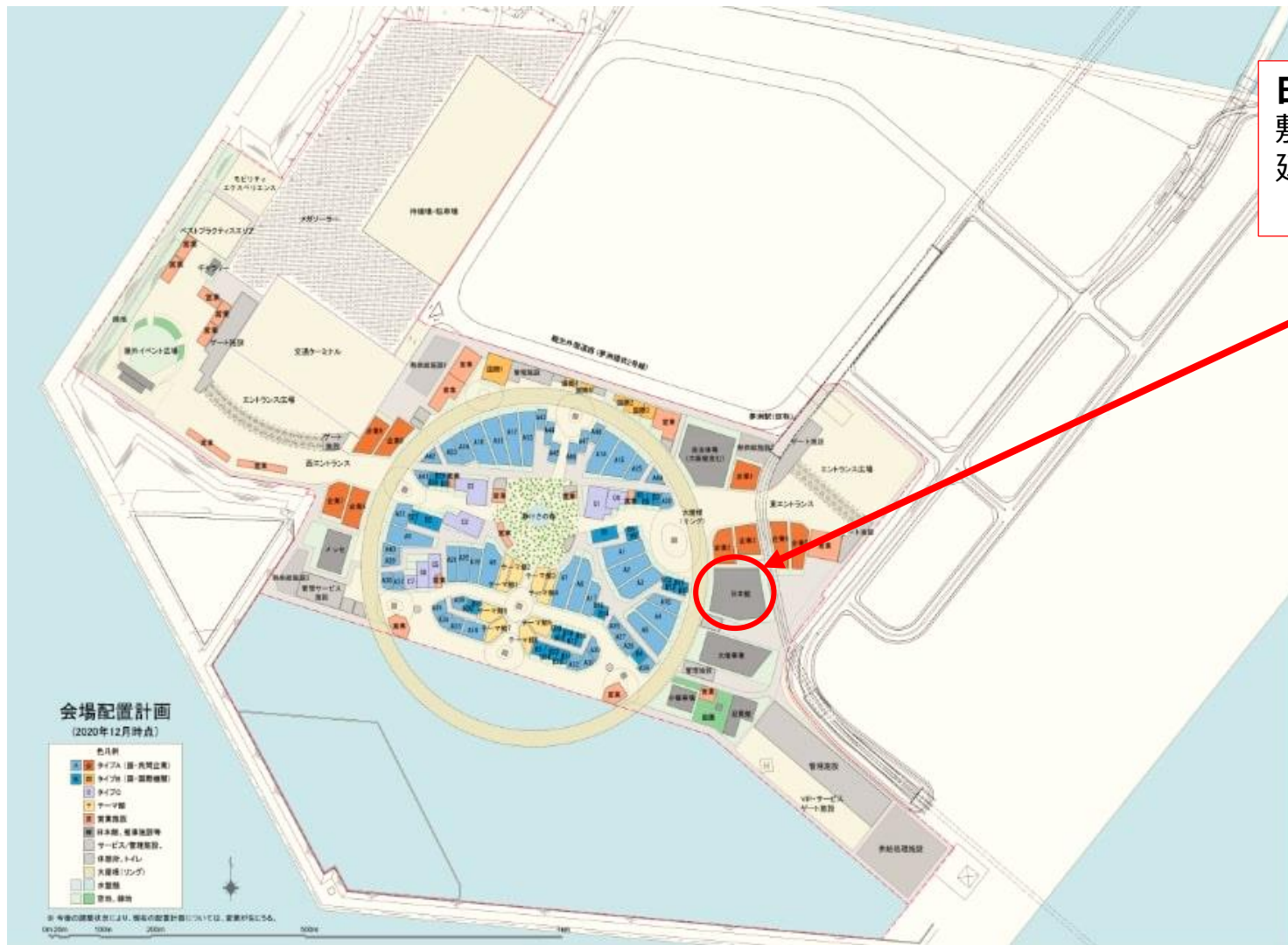
展示や建築等の分野特性に応じた検討体制を構築するとともに、それらを横断的に監督し、各分野に対し指示・提案等を行うような建築・展示等の専門的な知見を有する有識者（総合プロデューサー）を配置。

1. 大阪・関西万博について
2. 過去博の日本館について
3. 日本館基本構想について
4. **今後の日本館の検討について**

2025年大阪・関西万博 政府出展事業検討会議について

- 本検討会議は、各有識者から日本館に盛り込むべき要素についてご意見を頂戴する場である。本検討会議を通して大阪・関西万博の「顔」となる日本館のコンテンツを、より充実したものとしていく。
- 今年度については、検討会議を複数回開催し、アウトプットとして「日本館基本計画」を策定する。基本計画には、日本館の核となるコンセプトや展示等の方向性について書き込むことを想定しており、有識者各位におかれては、今後の検討会で提案する基本計画の要素及び基本計画（案）に対してご意見をいただきたい。

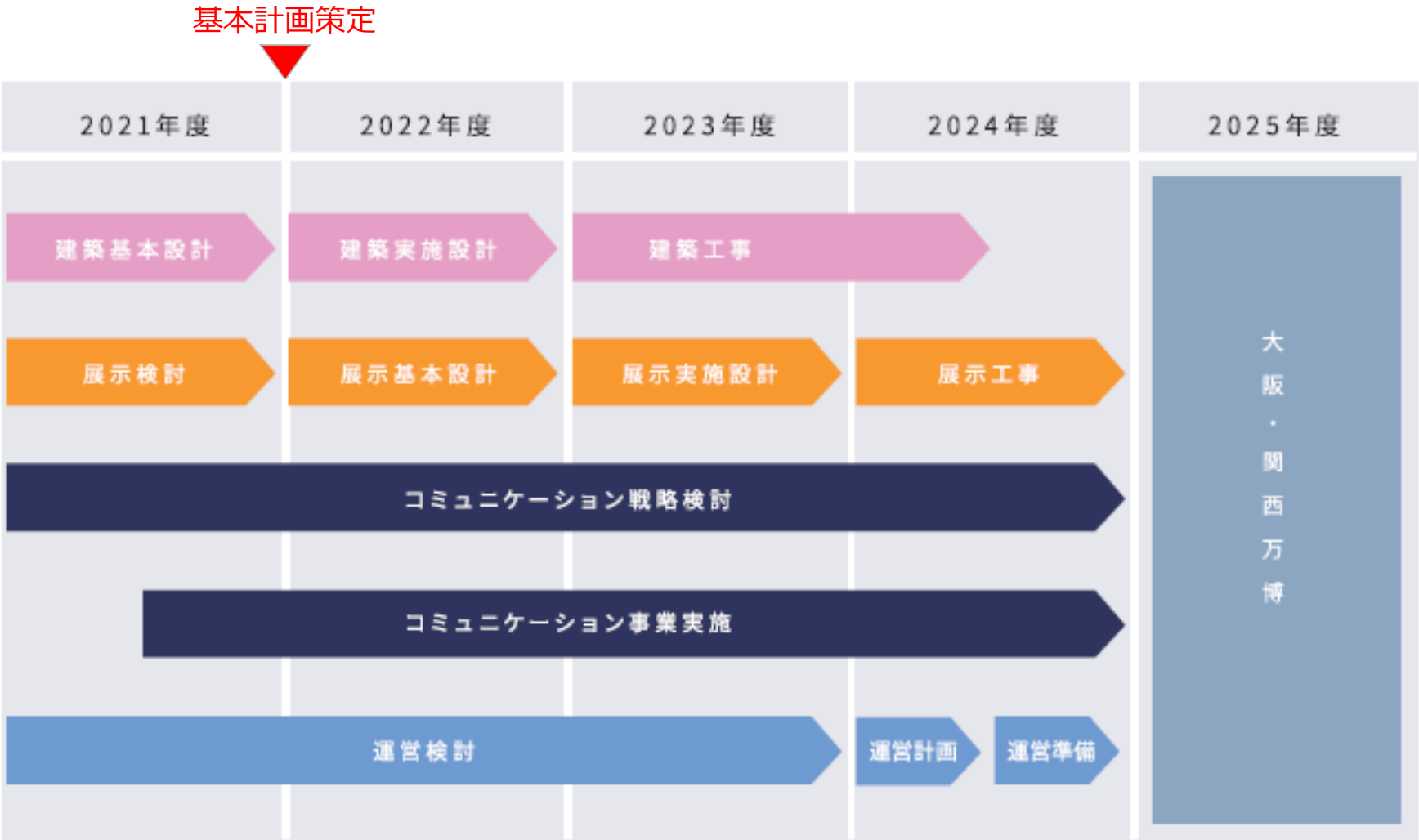
日本館の配置について



日本館建設予定敷地
敷地面積：12,900m²
延床面積：未定
(日本国政府が建設)

日本館の検討スケジュール

- 今年度、日本館の展示等の検討を行い、年度末までに展示の骨子を示す基本計画を策定。



参考：愛・地球博 政府出展基本計画（概要）

- 2005年愛・地球博においても、会期3年前に政府出展基本計画を策定。
- 基本コンセプトのほか、展示概要を盛り込んだ内容。

＜基本計画（2002年3月）のポイント＞

【基本コンセプト】 「人間社会と自然の新たな関係を創造する」

- ・経済・社会の安定的発展と自然・環境を維持していくことの調和を図ることが地球環境全体の課題。
- ・自然を、克服するものであったり、経済発展のための資源、文明・文化の対局として捉えるべきではないと確認するとき。
- ・従来の行動様式や、価値観から脱却し、自然との共生を目指し、人間と自然の新しい持続的な関係を構築するとき。

出展形態の概要

- ・長久手・瀬戸・サイバーの3形態、
- ・IT機能の活用等による戦略的出展

長久手日本館

瀬戸日本館

サイバーパビリオン

長久手日本館

- ・全体テーマ「日本の体験、環境といのちの未来」
- ・ゾーニング／展示ゾーン毎のテーマ
→ex「人類への警鐘と旅立ち」：地球全体の環境危機を体感することにより、来館者一人ひとりに問題意識を投げかける

瀬戸日本館

- ・全体テーマ「人と自然・・・交流の系譜」
- ・ゾーニング／展示ゾーン毎のテーマ
→ex「年中行事と旬のギャラリー」：和の豊かさを確認する「季節のコレクション」／もてなしと四季の味わいを堪能するイベント

（参考）長久手日本館ゾーニングイメージ

